

# 合宿の成果

## ビジョン検討の要素の抽出

| 3グループの例           |  | 温暖化・エネルギー                 | 資源・循環 | 生態系                | 環境リスク | その他               |
|-------------------|--|---------------------------|-------|--------------------|-------|-------------------|
| C-2<br>アジアとの共生    | 一次産業、二次産業の海外移転による生態系破壊、公害輸出                                  |                           |       |                    |       | 自給率低下による食糧安全保障の問題 |
|                   |  | 資源の取り合い、資源価格高騰            |       | 輸入食糧の健康リスク（農薬、病原菌） |       |                   |
|                   | フェアトレードの推進<br>環境産業の育成（省エネ、省資源、リサイクル、生態系管理、水管理）<br>一次産業の政策的維持 |                           |       |                    |       |                   |
| A-2<br>地域共生コミュニティ | 異常気象による自然災害  | 森林の荒廃（木材も生産せず、生物多様性も持たない） |       | 自然災害<br>コミュニティの崩壊  |       |                   |
|                   | 国土の再配置<br>グリーンツーリズム・農村留学                                     |                           |       |                    |       |                   |

避けるべき問題、 望ましい社会・環境像、 着手すべき対策

# 合宿の成果

## ビジョンの骨子: 安井G-1

- ◆ 玉鋼の日本 しなやかで強靱な社会
  1. 2 アップ以内を実現する高度環境技術
  2. 地域社会の末端まで配慮された福祉
  3. 極めて高い資源・エネルギー効率
  4. 暖かい人間関係とチームワーク
  5. バランスの取れた一次産業、二次産業、三次産業
  6. 先端高度技術による国際貢献
  7. 日本文化の維持
  8. 移民に依存しない
  9. 公害系負荷は解消
  10. 経済力を有するものの、多様な幸福感
  11. 地球共生型のマインドを持った人々
  12. エコシステムサービスの維持

# 合宿の成果

## ビジョンの骨子: 安井G-2

- ◆ しなやかな国際人、日本 開かれた社会
  1. 国際社会への技術的貢献
  2. 移民を積極的に受け入れる
  3. 外で活躍できる日本人による経済活力
  4. 国際基準を基準として生きる
  5. 異文化との交流に幸せ感を持つ
  6. 仲良くする。宗教観など
  7. 日本文化とも両立
  8. 英語以外の言語も自由に扱う

# 合宿の成果

## ビジョンの骨子: 安井G-3

- ◆ 義経の鎧 スイスを見習う防衛社会
  1. 国産のエネルギー(原子力)、国産のコメ、などによる資源・食糧自給を目指す
  2. 超高効率化された高度技術
  3. 超高効率技術の移転による経済活力
  4. 高度の情報化社会
  5. 防衛力も自力で維持
  6. 整然とした社会システム
  7. 高い海外との交渉能力
  8. 外国人は外国人として取り扱う

# 合宿の成果

## ビジョンの骨子: 安井G-4

- ◆ 経済利潤を自由に追うフットワーク社会
  1. 金融業、貿易などを中心とした高度利潤社会
  2. 格差は有って当然
  3. 世界中の資源の争奪戦にも参戦
  4. 技術的な開発には依存しない
  5. 地球温暖化が起きたとしても無頓着
  6. 経済活力の阻害要因となるような社会的な規制は一切排除
  7. 地域の振興は、なりゆきまかせ。弱い地域は消失するのみ
  8. 弱者には自己防衛を要求
  9. 極限まで小さな政府。極限まで安い税金
  10. 非熟練労働への移民の活用

# 合宿の成果

## ビジョンの骨子：西岡G

### ◆ 自然に憧れられる日本

1. 環境産業革命の時代を認識し、一次から三次まで全産業を環境配慮を組み入れながら進化させる (Ecological Evolution or modernization) ことによって経済を維持
2. 適切な配分によって自律分散型地域力を強化し地域環境資源を保全する
3. 同時に、投資、技術移転、金融、ODAを通じた海外への働きかけにおいては、強く環境配慮をすすめる